

建て が攻勢



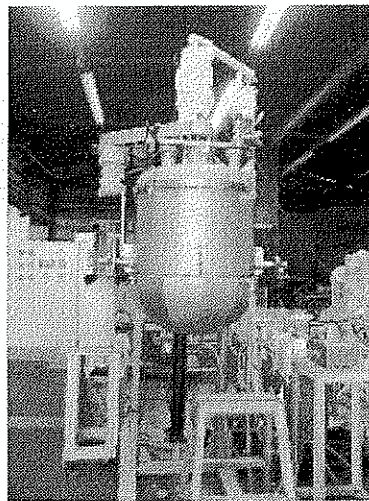
オフィス、マンションに定評のある住友不動産が一戸建て住宅の強化を打ち出している。三井不動産など他の大手不動産に比べると、注文住宅で出遅れ感がある住友不動産。強みであるマンション開発のノウハウを生かし、マンション仕様の高級な住宅設備機器や独自の制震装置を備えた新商品を投入し、巻き返しを図る。

「オフィス、マンション キッチンをはじめ、マンションだけでなく、注文住宅でも強みを発揮したい」。和泉沢忠晴専務執行役員

マンション用 高級土兼・コスト咸

外観や空間づくりでは、テラスやバルコニーの出入り口には約2・4枚のサッシを採用し、開放感を演出。外観では軒先の水平ラインと統一感のある窓回りにより、洗練された外観を創り出した。最も特徴が表れているのは、

「J・レジデンス」はマンション仕様という他に追いつけぬ新商品となる。東京・大阪・名古屋



ファームステーション(東京都区部、酒井里奈社長、03・6277・1047)は、飼料用

飼料米からエタノール

化粧品など
商品化へ 岩手で実証実験

ファームステーション

のコムから抽出したエタノールを使って化粧品などを商品化するため、岩手で実証実験に乗り出した。エタノールの生成過程で生じる発酵残さについても家畜の飼料として畜産農家に提供する。地域の農産物資源を有効活用したビジネスモデルを構築し、地元の活性化に役立てる。

地元農家から原料のコムを提供を受け、岩手県奥州市に設置したプラントで同社がエタノールを製造する。商品化に向けては、東日本大震災から

の復興事業を手がけるなど、つかしい未来創造(岩手県陸前高田市)が市場調査などで協力する。

原料として使うのは、休耕田で生産した飼料用のコム。これを破砕機や発酵・蒸留の一体型装置(写真)などで構成するプラントに投入する。蒸留後に廃液を出さないため処理コストと環境負荷の少ない固体発酵と呼ばれる方法でエタノールを生成する。

生成したエタノールを使い芳香剤や消臭剤を開発し、売り出していく計画。生成過程で発生する発酵残さについては、岩

大起理化学工業(埼玉県鴻巣市、大島忠男社長、048・568・2500)は、東京大学と共同で、土壌表面から発生する二酸化炭素(CO₂)を測定する実証実験に着手した。同社が開発した「CO₂計測ステーションII」写真)を千葉県市にある東大の実証実験圃「ペレニアルガーデン」に設置し、モニタリングを始めた。

CO₂計測ステーションは2台の測定チャンバーを用いて条件の異なる2カ所の土壌CO₂を計測。1時間、24時間(それぞれ)の排出量を1平方センチミリグラム

四国電力の火力発電所。同2号機の運転開始は阿南(徳島県阿南市)、69年。古いプラントの橘湾(同)、西条(愛媛県西条市)、坂出(香川県坂出市)の4拠点。このうち阿南発電所では10年3月から長期計画停止に入った2号機(出力22



現場支援するOB(右)が若手社員に助言する(阿南発電所、四国電力提供)

シニアと若手の夏のピーク

13年にも商品化する計画だ。同社は、バイオマスのエタノール化に取り組む技術開発企業。醸造・発酵技術に関する教育・情報提供も行っている。

川崎設備
備工事は長年のノウハウがある」と自社の技術力に自信を持つ。技術に特化した教育プログラムを7月に始めるなど人材育成も怠らない。

趣味のゴルフはハンディ18。ハンドボールで国体に出たスポーツマン。時間を見つけてはジムで汗を流す。

(名古屋・伊藤吉登)

73年(昭48)名古屋工大卒、同年川崎重工業入社。07年川崎設備工業入社、同年執行役員、同年常務。大阪府出身、61歳。6月28日就任予定。

企業の自家発電設置に力